

# Libella りべら

持続可能な未来をみんなでつくる

vol.161  
2023.2

りべら  
VOL.161  
2023.2

●特集 ～多文化共生の取り組み～

## ウェルカムにしよど

- ・地域社会におけるコンタクト・ゾーンの生成
- ・こんにちは出来島-出来島識字・日本語交流教室-
- ・TABUNKA★多文化交流
- ・にしよど多文化訪問記
- ・外国にルーツをもつ子どもへの学習支援活動
- ・インターナショナル出来島きら★きら通り



〈表紙の作品〉  
「甦る命」アート魚拓・林周宏(2022年11月3日～7日)  
西淀川アートターミナル(NAT)企画展「みてアート2022」

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)  
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階

## あおぞらフォトギャラリー



吹奏楽団アンサンブル・ウペポと西淀川区役所との共創事業により、「第4回にしよど青空コンサート」が西淀川区佃にある佃防災船着場にて開催され、素敵な音色と歌声が神崎川に響き渡りました(共演:西淀川少年少女合唱団)(2022.10.23)



阪神電車福駅にて福ハッピーフェスタが開催され、エイサーや合唱、手づくりオルガンなどの舞台と飲食やワークショップ、健康コーナーなどのテントが並び盛り上がりました(2022.12.4)



西淀川・公害と環境資料館(エコミュージズ)では、みてアート2022に併せて、企画展「絵画やポスターに見る西淀川公害とその地域」を開催し、2日間で350人を超える方に来場いただきました(2022.11.5-6)



## おもしろいわ 西淀川

SNSで発信中!



#おもしろいわ  
西淀川



(@shimiz\_u\_seminar)



「みてアート」に  
お手伝いとして  
行ってきました!

僕たち清水ゼミは

沢山の家族連れやお年寄りの方など幅広い層の方々が笑顔になっているのを見て、僕たちも心が温かく  
来年はもっともっと盛り上げたいと思います

#龍谷大学 #政策学部 #大野川緑陰道路

西淀川魅力発信  
サポーター事業と連携



1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978～1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

### 【あおぞらビル】

#### 【1F】地域交流スペース「あおぞらイコパ」

会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。  
午前:1,000円/午後:1,300円/夜間:1,300円/全日:3,000円

#### 【5F】西淀川・公害と環境資料館(エコミュージズ)

西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。(環境教育等促進法にかかる「体験の機会の場」認定施設)

開館日 月曜日と金曜日(10:00～17:00) / 要事前電話予約

※いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

### 【会員・寄附募集】

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

- 賛助会員 会員の方には機関紙「りべら」などを送ります。  
【年会費】個人:年一口5,000円、学生:年一口2,000円、  
法人・団体:年一口10,000円

#### ● 会費・寄附の振込先

【郵便振替口座】記号・番号:00960-9-124893/加入者名:あおぞら財団  
【ゆうちょ銀行】金融コード:9900/店番:099/預金種目:当座  
/店名:0九九店/番号:0124893/名義:あおぞら財団  
【三菱UFJ銀行】歌島橋支店/普通/372858/財)公害地域再生センター  
これまでご案内しておりました、三菱UFJ銀行と口座が変わっておりますので、ご注意ください。

# にウエルカム

多文化共生の取り組み

多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく」こと。近年、西淀川区でも多様な国のルーツを持つ人びとが暮らすようになってきました。海外との往来が途絶えた新型コロナウイルス禍を乗り越えて、大阪市西淀川区で取組まれてきた、様々な主体による多文化共生の取り組みを紹介し、これからのまちづくりを考えていきつけにしたいと思います。



岡地 武 (おかちたけし) 西淀川区役所保健福祉課

西淀川区役所の岡地武さんに、西淀川区の現状についてお話を伺いました。

西淀川区に住む外国人籍住民の方は？

現在西淀川区では、60カ国を超える国籍の方が、約4,400名暮らしておられます。

西淀川区の総人口に占める割合は約4.6%で大阪市の割合(5.2%)より少し少ないです。

区内の国籍別人口の上位の国は、「韓国・朝鮮」、「ベトナム」、「中国」、「フィリピン」、「ブラジル」、「ネパール」、「ペルー」、「インドネシア」、「パキスタン」、「ミャンマー」の方が増えています。

近年、「ベトナム」、「ネパール」、「インドネシア」、「パキスタン」、「ミャンマー」の方が増えています。

西淀川区役所としての課題は？

外国につながる児童生徒の受入れ・共生のため、児童生徒の日本語学習の支援を行う「らんまん」が淀中学校

ウエルカムにしよど～西淀川区内でも多文化共生の取り組みが始まっています。

西淀川区役所と西淀川区社会福祉協議会が策定した西淀川区地域福祉計画・地域福祉活動計画「ささえあい♡(あい)プラン」(令和2年7月策定)の一環として、言葉の壁などにより、地域との関わりが少ない外国籍住民の方への生活や福祉に関する情報を届けることで安心・安全に生活が出来るように「届ける」をキーワードに支援・交流を行う取り組み「ウエルカムバンク」プロジェクトを実施しています。



## 数珠つなぎインタビュー

まずは、当事者の方々に実際にお話を聞きする「数珠つなぎインタビュー」を令和3年10月より始めて9カ国32組(40名)の方に実施しました。「どこに買い物に行きますか?」や「コロナ禍で困ったことはありますか?」、「日本に来て驚いたことは?」など、同じ西淀川区民として楽しく話しています。



## にほんごカフェ

数珠繋ぎインタビューの結果、「日本語を学ぶ場が少ない」、「日本語で話したい」、「仲間が集える場が少ない。」等の声が多かったので、令和4年9月から月2回(昼夜各1回)「にほんごカフェ」を「あおぞらイコバ」に開設しました。カフェでは、単に「にほんご」でお話をするだけでなく、気軽に集まっておしゃべりしてコミュニケーションを図り、様々な疑問に答えたり、情報を得られる場づくりを目指しています。

- 日時：毎月 第3木曜日 / 18:00～20:30  
毎月 第4月曜日 / 13:00～15:30
- 場所：あおぞらイコバ(あおぞらビル1階)



に整備され、学校の先生を対象に、生活言語と学習言語の2言語間で成長することもたちの日本語学習についての研修の実施、高校進学への支援として、仕組みや費用等の情報を提供する「たぶんか高校進学セミナー」、保育所入所面接にかかる通訳者配置、相談窓口案内資料の多言語化など行っております。また、就学前のこどもたちが教育を受ける機会を逃すことなく、教育的支援を受けられるよう「にしよど☆グッドスタート事業」等もはじめています。

# 地域社会における コンタクト・ ゾーンの生成



私は、大阪市西淀川区出身ということもあり、西淀川区において、文化的に多様な背景を持つ人々がどのように共にくらし、生きているのか、エスノグラフィ（そこに生きる人々の記録として描き出すことを目的に研究しています）。

西淀川区は、かつての漁村から工業地域へと変容し、公害が起こりました。この負の遺産を次世代に引き継いでいこうとする取り組みが行われています。また、現在も漁業活動が行われており、歴史を継承していく努力が続いています。一方、工場で働く人などとして、ブラジルやペルー、フィリピンやベトナムなど、様々な国にルーツを持つ人々が居住するようになり、さらにはスリランカやパキスタン、インドネシアなどのムスリムの増加によりマスジド（礼拝所）ができ、その周りにハラールフード商店・ハラールレストランなどが集まっています。このような、旧来からの住

人と、外国にルーツを持つ人々を含む新しい住人の持つ多様な文化が、どのように接触し、人びとがどのように共に暮らしているかという点に共鳴しているのか、「コンタクト・ゾーン」という概念のもとに描き出そうとしています。なお、「コンタクト・ゾーン」とは、異なる複数の文化が接触し、相互作用しながら混濁し、変容していく場所のことを指します。

西淀川区では、旧来からの住人と新しい住人による、さまざまな「コンタクト・ゾーン」が生成されていると考えられます。商店会では、多言語での案内を行ったり、外国にルーツを持つ人々と一緒にイベントを行ったりしています。外国にルーツを持つ人々、特に子どもたちに対して支援を行うボランティア団体では、外国にルーツを持つ人々自身も支援する側になっています。識字・日本語交流教室では、そこでの学習できない人など、多様な学習者に対応

し、居場所、なんでも相談できる場所、楽しく交流する場所となっています。イスラム礼拝所では、多様な国からのムスリムが集まり、交流しており、地域の関係者とも連携して問題に対応しています。また、地域に関わるさまざまな人々が、外国にルーツを持つ人々に対してウエルカムな気持ちをお届けする「ウエルカムバンク」によって、外国にルーツを持つ人々にインタビューが行われ、新たに「にほんごカフェ」という取り組みも行われています。



寄本 圭子  
(さきもと けいこ)

大阪市立大学 文学研究科  
文化構想学専攻 文化資源学  
専修 後期博士課程在籍

私は、地域の活動に参加させて頂いたり、地域の方々にお話を伺ったりして、多様な人々が共に暮らしていくための日常的な取り組みを描いていこうとしています。

参考文献 / Pratt, Mary Louise 1992. *Imperial Eyes: Travel Writing and Transculturation*, London: Routledge

## こんにちは 出来島

— 出来島識字・  
日本語交流教室 —



毎週火曜日19時から出来島小学校の1室で、外国につながる市民の方や様々な事情により読み書きの不自由な方向けの無料の出来島識字・日本語交流教室が行われています。ベトナム、フィリピン、中国、ブラジルなどから来日して、出来島や中島地域などの工場で技能実習生として働く人たちがやその家族の人たちが「よみ・かき・ことば」を通して「日本語会話」を学んでいます。

### ● 成り立ち

出来島識字・日本語交流教室は約15年前に生涯学習ルームとして、地域の人たちと外国の人たちとの接点になればということでも立ち上がりました。主に地域の町会のひとや、区報【きりりにしよど】のボランティア募集のお知らせを見て応募してきた人たちで構成されています。

### ● ボランティアについて

ボランティアになる条件は、活動に興味のあること。日本語教師の資格も不要でパートナー制を取っていて、基本決まった人を担当します。そのついでに教室内だけでなく普段の日本の生活で困った時に相談しやすい関係性を作っています。

### ● コロナ禍と教室

始まった当初、教室は30人以上の人たちが集まってい

### ● これからのビジョン

上からの【支援】ではなく、縁があつて日本にやつてきた人たちの【居場所】になればとコーデイネーターの福留さんは話します。同じ地域に暮らす日本人と外国人が出会い、会話を交わし、お互いの理解を深め、国籍を超えた関係性づくりが出来島から始まっています。



● (やさしいにほんご)「出来島識字 (できじましきじ)・日本語交流教室 (にほんごこうりゅうきょうしつ)」について  
<https://www.city.osaka.lg.jp/nishiyodogawa/page/0000101345.html>

広告

## 調理後の油を 無料で回収します！



50年以上の実績で、  
一滴残さず再び資源にリサイクル  
資源循環でSDGsに貢献します！



浜田化学株式会社  
Hamada Kagaku

まずはお気軽にお電話ください！  
TEL 06-6411-3457

@hamadagakaku



## 外国にルーツをもつ 子どもへの 学習支援活動



西淀川インターナショナルコミュニティ  
https://nishiyodoic.net

毎週月曜日の夕方、阪神出来島駅にほど近い、外国にルーツをもつ子ども向け学習支援教室では、子どもたちのにぎやかな声が聞こえたり、真剣に学習に取り組む姿があちこちで見られます。わたしたちが主催する小学生向けの学習支援教室「きらきら」と中学生向けの学習塾「アニメ」では、現在、ペルー、ブラジル、フィリピン、パキスタン、ネパール、スリランカ、ベトナムにルーツをもつ子どもを受入れており、日本語習得や教科理解を促す活動を続けています。

外国人家庭では一般的に、家庭内に日本語を聞く・話す・読む環境が乏しい、保護者が宿題の日本語がわからず教えてあげられない、中学卒業後の進路について知識がない、などの理由から、学校での教科学習理解が遅れて自信を無くしたり、望むような進路に行けない子どもが少なからず存在する現実があります。

外国人住民の多い西淀川区でも同様の課題を抱える外国人家庭が多くあり、子どもたちの日本語習得や教科理解を支援することで、将来的に日本社会で自立して生活する力をつけることを主な目的として、外国人と日本人が協働して取り組むボランティア団体「西淀川インターナショナルコミュニティ」が2015年に結成されました。2016年から学習教室を継続して開催し、現在では毎週月曜日の「きらきら」(小学生対象)と「アニメ」(中学生対象)に各々10名近い子どもが通っています。

西淀川区内外からボランティアの皆さんが参加し、専門知識をもった講師と一緒に指導にあたっています。子どもたちは日本語での会話はできる場合が多いのですが、テスト問題等の読み書きとなると理解ができていないことが多く、わかりやすい日本語で説明して、ひとつひとつと



中村 満寿央  
(なかむらますお)  
西淀川インターナショナルコミュニティ代表。2013年から西淀川区での外国人支援活動に関わる。一般財団法人ダイバーシティ研究所理事。

ばを習得してもらおう活動を続けています。自分で問題を解けるようになった子どもの笑顔には、逆にこちらが勇気づけられることもあります。

近年、区役所、近隣の学校、商店会などとの協力も進み、地域活動として拡がりをもって定着してきました。それに応じて通う子ども数が増え、ボランティアが不足気味になっていきます。毎月1回、ボランティア説明会を実施していますので、活動に興味のある方はぜひウェブサイトからご連絡ください。これからも多文化共生を地域で実現する活動として、外国人も日本人も多くの方が参加してつくり上げる教室になればと考えています。

## インターナショナル 出来島きら★きら通り



ショートムービー  
「Hola!出来島!!」  
完成!

出来島商店会  
https://dekijima-shoutenkai.com/

阪神なんば線「出来島駅」のまわりに広がる出来島商店会は「インターナショナル出来島きら★きら通り」という愛称で親しまれています。周囲には工場が多く、近年は外国から働きに来ている人たちも多く暮らす国際色豊かな街になりました。そこで、商店会として外国から来た人を応援しよう!と世界のグルメや南米の音楽、ダンスなどが楽しめる「インターナショナル出来島きら★きらフェスティバル」(通称:きら☆フェス)や「にしよどワールドフェスタin出来島JULIANA & PERUANA」というインターナショナルな楽しさいっぱいのイベントを開催してきました。また、店舗情報を多言語表記した「グルメガイド」を作成、各店舗のメニュー表を多言語にしたり、店ごとに多文化の言葉で「ウエルカム」という気持ちを伝えるような表示を心がけています。

新型コロナウイルスの影響でイベ



トが開催できなくなりましたが、2023年頭には新たなプロジェクト「出来島商店会をPRするショートムービーをつくらう!」が動き出しました。西淀川区在住の映画監督・岸本景子さんの協力の下、様々な人やお店が参加して、商店会で4日間の撮影が行われ、1月28日に開催された「Holo!出来島!!」お披露目上映会には、多くの人が訪れました。映画のテーマは「多文化共生」、HPにも掲載されているので是非ご覧の上、出来島商店会にお立ち寄りください。



お話を聞かせていただいた、出来島商店会 会長・小川広志さん(就労継続支援B型事業所colordreamにて)

医療費の支払でお困りの方 相談下さい。「無料低額診療」実施中!

～「いのちの平等」をめざして～

差額室料をとらず、24時間365日 医療と介護

WHO認証  
「地域健康増進支援事業所」  
認証施設

看護師・介護職 募集中!

- 西淀病院
- のぞと診療所
- 千北診療所
- ファミリークリニックあい
- 姫島診療所
- ファミリークリニックなごみ
- 介護老人保健施設よどの里
- 在宅総合センターらくらく
- 社会医学研究所

公益財団法人淀川勤労者厚生協会 TEL 06-6471-0496 URL www.yodokyo.or.jp

ぶらりと  
ゆるりと

# 西淀川めぐり

イラスト:とりやまひろこ

にしよど世界の味めぐり  
今回は西淀川区内で身近に楽しめる  
「世界の食」を紹介します。

## ベトナム料理専門店 一本わら

2021年9月に西淀川区歌島にオープンした気軽に本場のベトナム料理が楽しめるお店。

お薦めは、ベトナムの国民食でもあるフォー(米麺料理)。牛骨を15時間弱火で煮込んだこだわりのスープは、透明で臭みもなく、ほのかに甘みを感じます。30種類の調味料に漬け込んだ豚肉をフランスパンに挟んだバインミー(サンドウィッチ)も絶品。お得なランチメニュー、様々な食材販売もあります。調理方法や食べ方を丁寧に教えてくださった店長のアンさんは日本語も達者で、「料理を通じてベトナムのことを知ってほしい」とのこと。カラフルだけ落ちて着店内でコーヒーを飲むと気分はベトナム～。ぜひ、お立ち寄りください。藤



住所:大阪府大阪市西淀川区歌島2丁目9-20ハウスアイ101  
営業時間:11:00~14:00、17:00~22:00  
定休日:水曜日  
TEL:080-5354-7474



## 大阪 Masjid ハラル フード

2010年に、西淀川区大和田にイスラム教の礼拝所である大阪 Masjid ができ、その一階にハラル食材店が2014年にオープン。ハラルフード=神に食べることを許された食べ物(肉、スパイス、お米、お菓子、飲み物など)を販売しています。例えば、販売されている鶏肉や牛肉、羊肉はイスラム法に則った食肉処理が施されています。



同店には、関西一円から礼拝に訪れる在日モスリムの方が出身国の味を求めて立ち寄ります。店内には、カレー等の材料となる本格スパイス類も所狭しと並んでおり、モスリムではない日本人の方も買い物に訪れます。Masjid 向かいに建つ、本場のカレーやピリヤニ(炊き込みご飯)、飲み物(アルコールは無し)が楽しめるハラルレストランと合わせて、イスラム世界の味を体験しにお出でください。藤

住所:大阪府大阪市西淀川区大和田4丁目12-16  
営業時間:11:00~22:00(礼拝時は閉店)  
定休日:なし



# 西淀川 記憶 あつめ隊 Vol.26



西淀川大気汚染公害裁判原告団



谷 智恵子さん

2022年9月30日ヒアリング

西淀川大気汚染公害裁判の弁護団の一人として、裁判の最初から関わった谷智恵子さんにお話を聞きました。

## 西淀川公害裁判と 弁護士人生が共に スタート

谷弁護士が西淀川公害に関わったきっかけは、司法修習生時の青年法律家協会の研究会で西淀川の公害患者の家に訪問したことです。「重度の患者さんがお布団の上に猫犬みたいに座って、はあはあと息をしてはった。しんどいですって話をしてくれはって」と、谷弁護士は衝撃を受けます。その経験を経て、西淀川公害裁判に参加するのは自然な流れでした。1978年、谷弁護士は西淀川公害裁判と共に、弁護士人生をスタートさせました。

## 公害患者の被害の実態を明らかにする難しさ

西淀川裁判は争点が多岐にわたる裁判のため、弁護団は6つの班に分かれていました。谷弁護士は被害班に所属し、深刻で広範な実態を裁判所に明らかにする役割を担いました。ぜん息の発作が一番ひどいのは夜中ですが、裁判官に

## 百の無駄から1つ 事実見つかったら良し

谷弁護士は現場での事実を探すことの大切さを西淀川で学んだそうです。当時の西淀川公害弁護団は若手の弁護士が中心。「力はあるけど、知恵はない。力があるということは無駄でもやれるってこと」と、被告企業の動きやどれだけ地域が汚染されていたのか

を労を惜しまずに探し回ったそうです。「百の無駄をやって一つ事実見つかったら良しっていうもんやと思います」と、西淀川で学んだ経験は、その後の裁判でも生きていくそうです。

## 原告が誇りに思える裁判

公害は「被害に始まり被害に終わる」と言われています。西淀川公害裁判は、企業および国と和解し、和解金の一部を用いて1996年におおぞら財団が設立されました。「和解金を原告で分けたらもっとたくさんのお金ももらえた。(あおぞら財団の設立は)西淀川の原告さんたちのレベルの高さを示している」と原告を高く評価。被害者が裁判を経て和解を誇りに思えるということが「被害に終わる」ということではないかと谷弁護士は考えています。

現場を大切にされている谷弁護士の姿勢が伝わってくるインタビューでした。谷

# 「ただならぬ防災」

## 西淀川で防災に奮闘している多田君による防災エッセイ

### 防災さんぽのすゝめ

皆さん、最近歩いていますか? 寒くなってきてなかなか外に出るのも億劫...でもお正月を経てズボンがキツくなって!なんて人もおられるかもしれません。

西淀川区は大野川緑陰道路や淀川堤防沿いなど、さんぽに適した場所がたくさんあります。

私自身、朝に大野川緑陰道路をさんぽしていますがそこを歩くだけでもいろんな発見があります。

大野川緑陰道路は昔の川を埋め立てて作られた道。「防災」をテーマに歩いてみたらそこには先人たちの記憶が詰まっているのです。

例えば43号線と緑陰道路が交わる場所に置かれている水防碑は、繰り返し高潮や大雨で被害を受けてきた西淀川区の教訓が書かれています。目立たない木の影で静かに教訓を伝える水防碑は歩いていてもスルーがち。ぜひ、さんぽがてら探してみてください。

大野川緑陰道路を福方面に歩き、終点まで行くと淀川に出て、広大な水面と対岸に梅田の超高層ビル群を望むことができます。

堤防の上から見た西

淀川の町は川の水面より低いことがよくわかることでしょう。普段生活しているとあまり実感することのない「海拔0メートル地帯」に住むということ。あえてさんぽとして歩いてみることで、いつもと違った角度から西淀川を見ることができます。

ぜひ、皆様も「防災」さんぽをしてみませんか?



多田 裕亮(ただ ひろあき)  
防災士。明石工業高等専門学校在籍時から防災団の立ち上げに関わり、防災ゲームを開発。大学進学後は「大阪防災プロジェクト」を設立。淀川右岸水防団に所属。



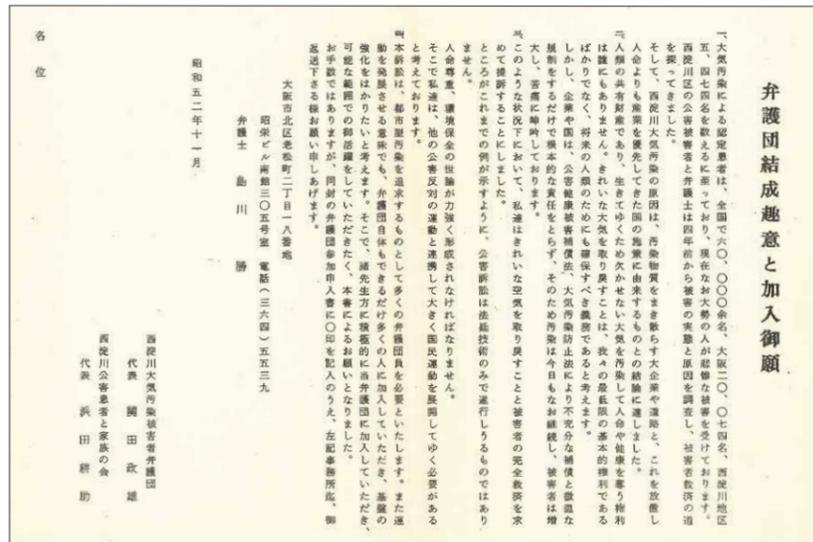


所蔵資料紹介

エコミューズ館長：小田康徳

裁判提訴の決意を正式に表明する

—弁護団結成の趣意を述べ、加入を正式に呼びかける文書—



西淀川公害訴訟弁護団資料No.3879

汚染の原因は西淀川区を取り巻く大企業の事業所や道路の展開、それを放置してきた国の行政にあるとの結論に達したこと、空気をよごす権限は誰にもないにもかかわらず、国や大企業はその責任をとろうとせず、汚染は継続していることを指摘し、きれいな空気を取り戻すことと被害者の完全救済をめざすこと、法廷の勝利には世論の力が大きいこと、その連携を実現するために多くの

弁護士の協力を求めると書かれています。ここには、年月をかけた検討の結果がみごとに集約されていたと言っていいでしょう。

この考え方に到達するまでに弁護士たちは分担して調査と研究を重ね、たとえば、差し止めについての考え方をさらに一段高めようとした論文を残しています。また、西淀川は古い工業地帯で、一見巨大企業がないようでしたが、その隣接区とも合わせてみるべきだとの見識に到達してきました。この文書には、そうした見識の確立とともに、被害者の声に耳を傾け、大事なことを成し遂げようとする弁護士たちの意欲と識見がありありと示されています。この延長線上には、近代の大都市形成のあり方に対する批判もまた見えていたのではないのでしょうか。公害地域再生の方向性も感じられる貴重な文書というべきでしょう。

西淀川公害患者と家族の会(以下患者会と略)が大阪弁護士会所属の若手弁護士に裁判提訴の相談を持ちかけたのは1973年10月のことでした。じつは、1970年前後のころから大阪の弁護士たちは、深刻の度を増す大阪地域の公害(たとえば大阪空港騒音問題・関電多奈川第二発電所問題・大阪中津コーポ高速道路問題など)を取り上げ、検討や対応を重ねていました。しかし、その弁護士たちが西淀川公害の提訴を正式に決意するまでには、それから4年という長い検討期間を費やさねばなりません。まずは、それを取り上げる社会的な意義の確認、そして、そのためには何を以て勝訴とするか、誰を相手とするか、論点をどう設定するか、また勝訴までの道程をどう支えていくか、等々、問題を把握するための真剣な検討が始まったのです。

写真の文書は「弁護団資料」と一括される資料のうち、初期に事務局長として弁護団事務局を支えた島川勝弁護士が保管していた複数ファイルの中に含まれています。文書は、最初に大気汚染による全国の認定患者数が6万余を数える中で、大阪が2万余り、その中で西淀川区が5474人と、格段に多いことを述べ、しかも今なお悲惨な被害を受けていることを指摘します。そして、こうした状況をもたらした大気



西淀川・公害と環境資料館  
エコミューズ利用のご案内

公害や西淀川地域に関する図書や、西淀川公害公害裁判資料、弁護団や患者会・住民運動などの写真や資料等を所蔵しています。ぜひ一度、お越しください。

◆利用案内 開館時間：月・金曜日 10:00-17:00  
web: <http://www.aozora.or.jp/ecomuse/>



公害は環境省の原点。公害地域の“今”を知る研修

あおぞら財団では、例年、環境省職員の「環境問題史現地研修」受け入れをしています。コロナ禍に入ってからでは中断していましたが、今年度は10月27日、28日の2日間にわたって再開して実施されました。この研修は、激甚な被害を経験した地域の“今”を知ることによって、公害のもたらす被害への理解を深め、環境省職員としての課題対応力を高めることを目的とします。現地にきた参加者は環境省職員11人と環境再生保全機構の3人の14人でした。東京からオンライン参加した方もいました。

● 公害地域の“今”を「現地」で学ぶ

本研修では「現地」で学ぶことを大事にし、プログラムでは当事者のお話やフィールドワーク、資料館の見学、課題解決のグループワーク等の体験型の学びを多数盛り込みました。

公害患者の語り部からのお話では、51歳と公害患者の中では比較的若い濱田健一さんに、療養など公害患者の日常生活についてお話してもらいました。

フィールドワークでは、バスで尼崎や西淀川の工業地帯をまわった後、国道43号で道路の大気汚染対策の説明を受け、大野川緑陰道路を歩いてあおぞらビルまで戻りました。

また、「西淀川大気汚染公害訴訟を会社サイドからみる」と題して、元神戸製鋼法務部長で訴訟を担当された山岸公夫さんからのお話もありました。山岸さんはあおぞら財団の理事でもあり、西淀川の原告団が企業と対話を重ね、信頼関係を構築したからこそお話してもらえる貴重な内容です。

● 仕事への理解やモチベーションにつながる

研修後にいただいた参加者の感想からは、「実際に現地に赴き関係者に直接会ってお話を聞くのは、今後の仕事への理解やモチベーションに大きく差がつく」、「『対話』を重ね、信頼できる関係を構築することが前に進むことへの第一歩」と現地に触れる大切さ、コミュニケーションの大切さを学んでいただけたようです。西淀川で学んだことが環境行政に生かされるのを期待しています。

主な研修内容

- 【1日目】
  - ・公害患者の語り部さんからのお話
  - ・村松昭夫弁護士(あおぞら財団理事長)のお話
  - ・交流会(公害患者とあおぞら財団スタッフ)
- 【2日目】
  - ・西淀川フィールドワーク
  - ・西淀川・公害と環境資料館(エコミューズ)見学
  - ・山岸公夫さん(元神戸製鋼訴訟担当)のお話
  - ・ワークショップ



公害患者の語り部



西淀川フィールドワーク



ワークショップ「西淀川で得た学び」

あおぞら財団  
教育・研修事業のご案内

あおぞら財団では、西淀川の公害の解決に取り組んだ貴重な経験をもとに、環境と人権を重視したSDGs時代の学びをコーディネートします。

◆西淀川フィールドワーク

西淀川公害裁判を経て、公害対策が進められた地域を歩き、青空をとりもどした西淀川の「今」を体感します。公害患者をはじめ、元企業の担当者、行政、弁護士などの多様な語り部をコーディネートできます。  
〈プログラム料〉1時間/10,000円(ガイド2人随行を基本)

◆講演・出張授業

公害患者の出前授業や、財団研究員による講演・ワークショップも承ります。  
〈お問い合わせ〉あおぞら財団 webmaster@aozora.or.jp

## あおぞら広場

### ありがとうございます

(2022年9月～11月 敬称略・順不同)

●お助け  
ボランティア  
大崎 ひより

#### ●寄附・寄贈者

おやお防災かるた  
協力金  
大門 信也  
谷 智恵子  
寄付者ニックネーム Y  
大島 民旗  
柏原 愛子  
林 衛  
櫻井 次郎  
切刀 恵美子  
あおぞら市の皆さん  
長野 晃

伊藤 三男  
小杉 亮子  
認定NPO日本都市  
計画家協会  
山田 文  
山本 俊一郎  
藤原 武志  
除本 理史  
林 美帆  
旗野 季人

#### あおぞら財団 寄附のお願い

日ごろより、あおぞら財団の活動にご支援とご協力を賜りありがとうございます。みなさまからの大切な寄附を私たちの活動に役立ててまいります。  
お振込み以外にも、オンライン寄付サイト「Give One」からはクレジットカード決済での寄附も可能となっております。ぜひ、ご活用いただけますと幸いです。

●オンライン寄付サイト Give One (ギブワン)  
<https://giveone.net/>

クレジットカード決済・ページをお選びいただけます。  
「あおぞら財団」で検索してください。

### スタッフツイッター 編集後記

**藤** 2023年年明けに、淀川河口にマッコウクジラが迷い込みました。きっと西淀川区の形がクジラに似ているから、仲間だと思って来てしまったんだと思います。残念ながら、天に召されてしまいました天国で仲間と会えますように～合掌。世界は海でつながっていることを改めて実感。多文化共生～世界中みんな仲良くしたいものです。

### りべら No.161 2023年2月号(年3回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)  
編集人:藤江 徹  
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階  
TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885  
<http://aozora.or.jp/> webmaster@aozora.or.jp  
デザイン:(株)バード・デザインハウス  
会員の購読料は会費に含まれています。  
本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

あおぞら財団  
Facebookページ  
「いいね!」を  
押してくださいね。



### 西淀川の声を集めています

不惑を過ぎてから、社会について考えるようになりました。格差だとか福祉だとか、承認欲求やらヘイトやら、社会問題に思いをめぐらせると“地域”って大切だなと思います。損得勘定めきに付き合えるのって物理的に近くにいる人じゃないかなあ。豊かな社会の土台には、隣近所の困りごとに世話を焼く、といったことがあるような気がします。

さて、私は西淀川区竹島に事務所を構え、雑誌や広告の制作をしています。仕事柄、人の話を聞いて文章にして発信することは得意なほう。それで「ニシヨド編集部」という場をつくりました。週1回、あおぞらビル1階に私があります。自分の話でも旨い店の情報でも何でも教えてください。記事にしたりして、西淀川のみなさんに発信しています。まあでも、それが地域にとっていいことになるのだろうか…。惑いながらやっています。



ふじわら たけし  
藤原 武志  
編集者・株式会社藤原事務所代表

Instagram / @nishiyodo\_editorial  
Facebook / @ニシヨド編集部

### 「りべら」に広告を掲載しませんか?

年3回発行の「りべら」は、あおぞら財団会員様をはじめ、西淀川の公共施設・店舗など、様々なスポットに配布しています。あおぞら財団の活動にご賛同いただける方からの広告の掲載を募集中です。

【りべら広告掲載費】  
中面1/9頁: 1万円/回、中面1/3頁: 3万円/回、中面全面: 9万円/回  
※お問合せ先:あおぞら財団まで TEL06-6475-8885

### 西淀川菜の花プロジェクト ～エコでつながる西淀川～



現在西淀川区内外約50箇所で、廃油を回収しています。回収団体募集中。

エコでつながる  
西淀川推進協議会  
事務局:浜田化学株式会社  
06-6411-3457

廃油回収先拠点は  
こちら▶



## ぜん息・COPDに関する 電話・メール相談室

広告

環境再生保全機構が運営する「ぜん息・COPD電話相談室」は「ぜん息・COPD」に特化した内容を無料で相談できるものとなっており、全国から毎年1000件近くの相談を受けています。

今使っている薬やこれからの治療など、ぜん息、COPDに関する心配ごとやお悩みごとについて、専門医と看護師や保健師がお答えします。ご本人様はもちろんご家族の症状まで、どなたでもお気軽にご相談いただけます。

電話だけでなくWebでの相談もできますので、ぜん息やCOPDについて疑問や不安に思っていることなどがありましたら、ぜひ一度ご相談ください。



フリーダイヤル: 0120-598014 (こきゅうはい～よ)

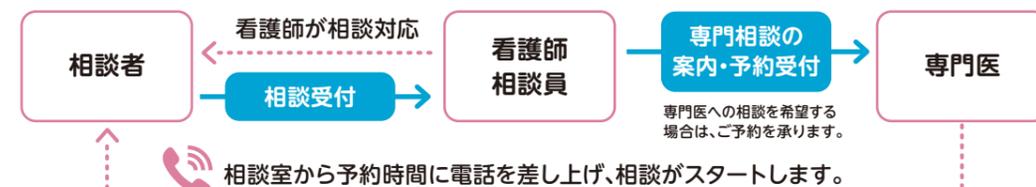
受付曜日・時間: 月～土曜日(祝日・年末年始を除く) 10:00～17:00

### ぜん息・COPDに関する電話相談室

小児ぜん息・成人ぜん息・COPDの専門医や看護師が無料でお答えします。  
ぜん息・COPDに関する心配ごとや悩みごとについて、電話やメールでご相談いただけます。  
専門医による電話相談日はホームページ等でお知らせしております。あらかじめ電話で予約をお取りいただくと、専門医相談日の予約時間に相談室からお電話いたします。



#### 相談の流れ



詳しくは **ぜん息 電話相談** | 🔍

またはこちらから  
<https://www.erca.go.jp/yobou/zensoku/service/tel.html>



環境再生保全機構は、環境問題に幅広く対応するための政策実施機関として設立された環境省所管の独立行政法人です。

環境再生保全機構では **様々なパンフレットも全て無料で配布しております**。提供しているパンフレットの一覧はホームページからご覧いただけますので、少しでも気になるパンフレットがあればお電話もしくはホームページからお申込みください。

<https://www.erca.go.jp/yobou/pamphlet/form/index.html>



独立行政法人 **環境再生保全機構** TEL:044-520-9504(予防事業部代表) <https://www.erca.go.jp/>